

貧乏に負けるな!佐々木監督となでしこ「1300日戦争」

特撮 なでしこ鮫島ちゃん スcoop 千葉高級住宅街5万ベクレル

46日で8kg減量!作家・黒木亮の「キムチ・ダイエット」 カラー 日本人の裸観、その変遷



週刊現代

独占告発 俳優・山本太郎が明かす

原発マネーとテレビ・芸能界

定価400円

8/6 Weekly Gendai 2011 August

「いま福島県で起きていること」
新聞・テレビがパニックを恐れて
報道を自粛する

こじ開けられた被災地のATM 「6億円の記録」



スクープ 「汚染腐葉土」関西の
ホームセンターで発売中

日本中枢の陰謀を暴く! 「原発と放射能は安全」 国民の税金でデマを流布

50すぎの女たちが喝「それでも男なの!」

三浦雄一郎 登山家 人生には目標が必要だ

投手という生き物 コーチは何を見ているのか

日本ハム・吉井理人の告白

余命3カ月「宮尾すすむ家の場合」

独占インタビュー 長男が明かす

原田芳雄 男の最期はかくあるべし

特別企画「かんと闘った記録」



健康基準なんか、 いけない

「日本政府がICRP（国際放射線防護委員会）の基準を盾にとつて、「年間20mSv（ミリシーベルト）までの被曝は安全」と主張しているのは、言語に絶するほど間違っている。」

ICRPのリスク・モデルはもともと1952年に作られたもので、その基準は軍需産業が核実験を正当化するためのものです」

こう話すのは、欧州放射線リスク委員会（ECRR）の科学委員長、クリス・バズビー博士である。

ECRRは、各国が放射線被曝の際の基準としているICRPのリスク・モデルを批判している科学者の団体で、両者の主張のもつとも大きな相違点は、内部被曝をどの程度リスクに織り込むかという点だ。

——日本政府が錦の御旗にするICRPのモデルには、どんな問題があるのか。ひとつは、やはり内部被曝の危険性を過小評価している点です。

外部被曝と内部被曝の違いは、こうイメージしてく

ださい。石炭がくべられている暖炉の前に私が座ると、身体を温めることができます。しかし、その赤熱した石炭を食べて体内に取り込もうとすれば、どうなるでしょう？ 私はすぐに死んでしまいます。それが、外部被曝と内部被曝の危険度の違いです。

われわれは現在、フクシマから100kmの地点で採取した自動車のエアフィルターを調べていますが、ストロンチウムやウランが検出されている。これらは内部被曝するとDNAに結合し、非常に危険です。それにICRPを信用してはいけぬ理由がありま

欧州にも原子力カメラはある

——ICRPや原発推進派の学者による学説を根拠に、日本でも「チェルノブイリでも大きな健康被害はほとんどなかった」と主張する専門家がいます。

そうした人々は、刑務所に送るべきです。私は個人的に、「科学的不誠実（scientific dishonesty）」とい

す。'09年4月、私はスウェーデンのストックホルムでICRPの最高責任者の一人であるジャック・ヴァレンティン博士に会いました。彼こそがICRPのリスク・モデルを書いた張本人ですが、彼は私に、「ICRPの内部被曝についてのリスク・モデルは間違っている」と認めたのです。

彼はその際、内部被曝について「最大900倍ものエラー（過小評価）がある」と証言しています。彼がそうした発言を始めたのは、ICRPを辞任したから。それで、ようやく「自分たちは間違っていた」と証言し始めたわけです。

す。市民の寿命は、おそらく15年は縮められたでしょう。ベラルーシでは今、多くの人々が40代でこの世を去っている。事故によって、完全に国がメルトダウンしたのです。

——日本には「原子力カメラ」と呼ばれる強固な原発推進勢力が存在し、一部の科学者は、彼らに買収されているとも言われている。

そういう科学者がいるのであろうことは、容易に想像できます。私自身は、過去20年間にわたって独立した科学者の立場を貫いていますが、そうした科学者は非常に少ない。というのも、自分たちの研究成果を発表しようと思っても、発表する専門誌に圧力をかけられたり、研究費を削減されたり研究する機会を奪われたりするからです。

ストックホルムにあるカロリンスカ研究所（医科大学）のヨハンセン教授をリーダーとする研究グループは、チェルノブイリ事故の影響とフィンランドとスウェーデンにある原発の影響を研究し始めていました。

彼らは
放射能利権を
守りたいだけ

ICRPの信用しては



「遠くへ逃げよ」と警告するクリス・バズビー氏

ところが、調査を始めて数週間も経たないうちに研究費をカットされ、ヨハンセン教授は、研究室から追放されてしまいました。

だから、私のような独立した科学者は、ほとんど残っていません。他の研究者は買収されてしまい、科学は今や、大企業の利権に左右されている状態です。

——あらためて、内部被曝の危険性について説明を。恐ろしいほど危険です。

核種によりますが、内部被曝は、同じ線量の外部被曝に比べ、300〜1000倍も危険だと考えています。たとえばストロンチウム90は、1mSvの内部被曝をすると、その影響は300mSvの外部被曝に相当します。

ここで指摘しておきたいのは、政府や東京電力が公

表しているセシウムの数値だけに気を取られてはならないということ。たとえば、いまのところ日本では、誰もトリチウムという核種を測定していません。原子炉内に海水をポンプで入れると、トリチウム製造機と化します。そこから出てくるトリチウムを測定すると莫大な数字になる。おそらくここ（東京都内）の水道水にも入っているでしょう。

同じようにプルトニウム

都合がいい死に方

被曝は、あらゆる病気を引き起こします。免疫システムに悪影響を及ぼすので、感染症に罹りやすくなり、インフルエンザに罹っても死んでしまう可能性もある。彼らにとって都合がいいです。放射線が原因で亡くなったとは言わずに済むのですから。

実際には、ご存知のように甲状腺もやられてしまいます。精神疾患や子どもの知能低下、心臓麻痺など循環器系の病気、呼吸器系の

は危険ですが、それだけに気を取られてはいけません。プルトニウムは最悪の物質ではない。私の意見では最悪の核種はウランです。

広島にはウラン型原爆が落とされたが、そのあと白血病の発病率は17倍に跳ね上がりました。福島第一原発の原子炉には、数百トンのウランが存在すると思われませんが、現時点でも沸騰したウランが毎日大気中に漏れ出し、浮遊している状態のはずです。

病気、さらには女性の不妊や、関節炎や歯が抜け落ちしてしまうといったレベルまで、様々な健康被害を発生させる可能性がある。

1カ月前にECRRメンバーの研究者が発表した論文によれば、出生児の男女比に大きな変化があったことも分かっています。つまり、生殖細胞に影響して、生まれる赤ん坊の男女比を変えてしまうのです。さらに1kg当たり約100ベクレルの高レベルのセ

シウムに被曝した子どもは、心臓に問題が生じることもわかっていきます。不整脈が生じ、心臓麻痺を起こすのです。胃にも問題が生じ、胃壁の粘膜がセシウムに破壊されて適度な塩酸を分泌しなくなり、胃潰瘍になることもあります。ペラルーシの9歳、10歳の子どもは、老人の病気を発症しています。

——福島の子供および日本国民に、助言はあるか。

できるだけ遠くに逃げる。ことしかない。しかし、逃げるにはお金が必要です。逃げた先で生活ができなければ動けない。

だから政府がもっと正確な放射能汚染の測定を行い、それに基づいて立ち入り禁止地区を決め、同時にリスクについて十分な説明をするべきです。そして、政府はそのリスクに基づいて、金銭的な補償を行わなければなりません。たとえば、1ベクレルの汚染あたり、1ドルの補償を行うというような形が現実的だと思います。

(取材・文／大野和基)